



自宅で取材会を開いた。左の女性がリカさん、右の男性がKビジョンさん。左の女性は「自宅で取材会を開いた」と語る。

長女リカがNGO「地に平和」の派遣員としてパレスチナに住むようになったのは1995年のことだ。ユダヤ人とパレスチナ人の領土問題などをめぐって長く紛争が続いていたが、1993年のオスロ合意によって解決への目途がつく。そこでパレスチナの貧しい母子の保健プロジェクトに従事するためにパレスチナに赴いた。

しかし、情勢は好転せず、2002年に帰国。東大大学で教えながらJVC(日本国際ボランティア・センター)の理事としてパレスチナにかかわり続けている。親の私たちも、パレスチナ支援組織「ワード・パレスチナ・リスチナ・カ(約束)パレスチナ・ちゃんの会」を立ち上げ、支援して来たが、段々に先細りになる。一昨年、これが最後の支援となり、それを私たち夫婦で手荷物として届けることになる。昨年、これが

ルダン川西岸地区において紛争、経済的要因が出産場所に及ぼした影響」。英語で書かれているので私は読めない。とにかく親としては、娘はパレスチナに育てられたという思いが強い。

今は、大学で教えながらJVC(日本国際ボランティア・センター)の理事としてパレスチナにかかわり続けている。親の私たちも、パレスチナ支援組織「ワード・パレスチナ・リスチナ・カ(約束)パレスチナ・リスチナ・ちゃんの会」を立ち上げ、支援して来たが、段々に先細りになる。一昨年、これが最後の支援となり、それを私たち夫婦で手荷物として届けることになつたが、友人の読売新聞の田上記者(当時)に同行させてほしいと頼まれ、3人で持てるだけの布オムツを現

リカ、Kビジョンに出演 「日々の暮らしの中から③」

サビエル生誕五百周年

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

602

と3人でパレスチナのトラウマを持つ子供たちの学校を訪ねた。しかし、わずかな支援でも期待されている実



1947年の国連分別案

態を知り、「これが最後です」と言い出せずに帰国した。

田上記者は読売新聞に同行記事を連載するとともに、Kビジョンでもその記録番組を作成した。これが、

ナ訪問は、Kビジョンの「あなたに会いたい」で放送してもらつた。リカが帰宅したことを知つたKビジョンから「あなたに会いたい」に出演依頼があり、先日、我が家で収録があった。16日から2週間にわたり放送されるそうにわたり放送されるそうであり、先日、我が家で収録された。放送を私も楽しみにしているところだ。

（アメリカ第一主義）のトランプ大統領になり、パレスチナ問題に関心を

持つてほしいと思う。

ル側の立場を繰り返す。1

947年の国連分別案に

よつて国際管理地区となつたエルサレム。しかしトランプ大統領はイスラエルの首都をエルサレムにするこ

とを認め、アメリカ大使館

もテルアビブからエルサレムに移転することを強行し

た。

アメリカの中間選挙を控え、自分に有利になると進める姿勢に各国首脳は頭を痛めている。それでもアメリカ国民が選んだのだから他国がどうすることも出来ない。アメリカ国民の良識に期待したい。

Kビジョンとパレスチナの関わりは長い。リカがパレスチナに住むようになり、オムツを使うので、赤ちゃんの現地から「何度も同じ紙オムツを使つがひどく、日本本の布オムツがほしい」と連絡して來た。それが新聞を通じて報じられると、たたかさんの布オムツが送られて來た。

アメリカの中間選挙を控え、自分に有利になると進める姿勢に各国首脳は頭を痛めている。それでもアメリカ国民が選んだのだから他国がどうすることも出来ない。アメリカ国民の良識に期待したい。

物として届けることになつたが、友人の読売新聞の田上記者(当時)に同行させられてほしいと頼まれ、3人で持てるだけの布オムツを現